

見ごろの植物マップ

2024年1月中旬～

No.25

①スイセン



②サザンカ



アイコンについて

- お手洗い
- ※車椅子での利用・おむつ替え可能
- 売店
- 自販機

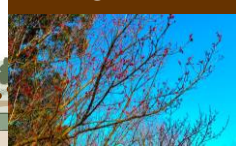
⑧アナベル



⑦入口花壇



⑥ウメ



⑤ハクモクレン



④ロウバイ



②フヨウ



※天候により見ごろが前後する場合があります。

①スイセン



科名：ヒガンバナ科
場所：水仙郷

地中海沿岸を中心に生息する宿根草で、草丈20～40cm程まで成長します。当園水仙郷では60,000球以上のスイセンが斜面一面に咲き、素敵な香りを漂わせます。現在見ごろを迎えており、2月上旬頃までは美しい花をご覧頂けます。

②サザンカ



科名：ツバキ科
場所：花木園 水仙郷

晩秋の花として親しまれるサザンカは日本の固有種です。ツバキの花とよく似ていますが、花が終わる時にツバキは花の形を残してそのまま落ちるのに対して、サザンカは花の形を残さず、花びらがばらけて散っていきます。

③フヨウの実



アオイ科
場所：花木園

当園で昨年9月～10月にかけて開花していたフヨウが実をつけています。枝先についた実と、その実が割れて出てくる種子も毛に覆われています。優雅な花の後に見られる姿は、「枯芙蓉(かれふよう)」として冬の季語にもなっています。

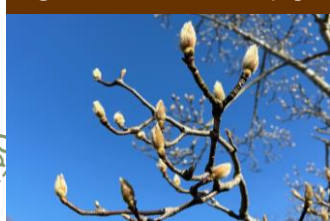
④ロウバイ



ロウバイ科
場所：花木園

中国原産の落葉低木。蛾(ろう)を塗ったようなつやがある花びらは少し透けていて、花は芳香を漂わせます。冬の寒い時期に咲く花木として、その香りと共に愛でられてきました。花の後に葉がつき、初夏頃に実をつけます。

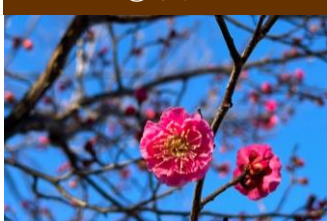
⑤ハクモクレンの冬芽



科名：モクレン科
場所：花木園

人と同じようにあたたかい“毛皮のコート”を着て、寒さ対策をし、冬芽の中であたたかな春が来るのを待ちわびています。暖かい毛に覆われた花芽はゆっくりと大きくなり、春3月～4月に見事な白い花を咲かせます。

⑥ウメ



バラ科
場所：花木園 第一駐車場入口

早春に咲き、お花見の対象としてサクラより長い歴史があります。奈良時代以前に「花」といえばウメを意味し、万葉集にはサクラの倍以上の歌が詠まれています。現代の日本で最も親しまれる果樹の一つでもあり、実は梅干しや梅酒として実用されます。

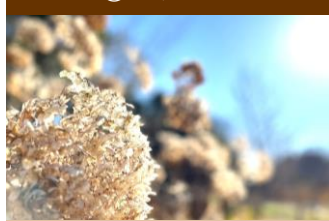
⑦入口花壇



場所：管理事務所手前

第2・第3駐車場から管理事務所へ向かう道中、交差点のすぐ側にある花壇です。大池沿いの花壇と同じく、明るくカラフルで元気が出る色合いのパンジーやキンギョソウ等が咲き、ご来園される方をお迎えしています。

⑧アナベル



科名：アジサイ科
場所：あじさい園

花色がグリーン→白→茶色と変わり、そこでそのままドライフラワーになります。茶色いアナベルの花は、光に当たるとキラキラし、アンティーク感があって素敵ですね。冬枯れの庭のアクセントになります。